

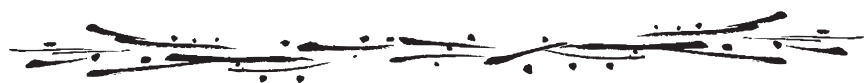


朝のこない夜はない

生いかされてほいる今いまに感謝かんしやし、
菩薩行ぼつさぎようをじつこう実行致いたしましょう。

副山首 鈴木正修

「私わがこは自分じぶんを取り巻といてまいる宇宙うちゅうの恐ろしい空間くうかんを見る。そして、自分じぶんがこ
の渺茫びやうぼうたる広がりひろの一隅いっくにつながれてないるのを認めるみとが、なぜ他たの所ところよりも
この所に置おかれておいるのか、なぜ私わがこが生いきるために与あたえられたこの僅わずかな時
間かんが、私わがこの先さきにあつた全永遠ぜんえんえんと、私わがこの後あとにつづく全永遠ぜんえんえんとの何処どこかに定めら
れないで、ここに定められたかさだを知らしない。私わがこが至いたる所ところに見るみのは無限むげんのみ



であり、それは私を一箇の微分子のように、また一瞬間つづいて再び帰らない影のように取り巻いている。私が知っているすべては、自分がやがて死ぬべき者であるとのことであり、自分がどうしても避けることのできないこの死こそ、私が最も知らずにいるものなのである。私は自分が何処から来たかを知らないように、私が何処へ往くかをも知らない」

これは「人間は考える葦である」と言った天才パスカルの言葉です。

この後、パスカルは「神を直感する」と言っています。また「それが信仰である」とも言っています。

『生かされている』ことを実感した人物の言葉だと思えます。

一八三八年、今から一七〇年ほど前に、地球上の生物は人も動物も植物も、すべて細胞からできているという細胞説がシュライデンとシュワンという二人の学者によって発表されました。当時の生物学者たちは狂喜しました。こ



れでいよいよ生命の不思議が解明されるのではないかと思つたのです。しかし現代の最先端の科学をもつてしても、未だに一つの細胞も作り出すことはできません。

遺伝子研究の第一人者・筑波大学の村上和雄先生によると、宇宙に細胞が一個偶然に生まれる確率は、毎回宝くじを買つて一億円が百万回連続で当たるくらいのとんでもない低い確率だそうです。そういう極めて希少な細胞というものが、六十兆も集まつて調和しているのが私たち人間なのです。

村上先生は言われます。「まさに奇跡というしかなく、どうしても人間を超えた存在を想定しないわけにはいかない。そういう存在を私は、[〃]偉大なる何者か[〃]という意味でサムシング・グレートと呼んでいます」

神、サムシング・グレート、私たちにとっては仏さま。人間は偉大な存在によって生かされているのです。



朝のこない夜はない（202）

『生かされていること』を実感できた時、人はいろいろなことに感謝でき、周りの人にやさしくなれ、世の中や他の人の為に尽くすようになるのです。逆に感謝できないと、自然に不平不満が募り、世の中や他人に求める心ばかりが強くなるのです。

御開山上人が荒行堂から信徒の方に宛てられたお手紙に「感謝と堪忍、これが法華経の肝心であります」とあることを、改めて深い意味のあることだと感じます。

限られた命です。感謝と堪忍を心に持ち、精いっぱい、精進の菩薩行をしながら生きて行きたいものです。